

災害ボランティア活動の 推進支援事業

実践例

「東北支援プロジェクト」

大阪府立堺工科高等学校定時制の課程

「高校生が園児に伝えた東北被災地ボランティア研修
～豊中市立西丘こども園での防災啓発報告会を実現して～」

大阪府立千里青雲高等学校

平成28年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
「防災教育関連事業」成果報告

東北支援プロジェクト



大阪府立堺工科高等学校
定時制の課程

◆大阪府立堺工科高等学校 定時制の概要



●学校の沿革

昭和15年 大阪府立堺工業高校 夜間部 設置
昭和23年 大阪府立堺工業高等学校 定時制の課程
平成17年 大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程 総合学科に改編

●学校の位置

JR阪和線 百舌鳥駅より徒歩20分
南海高野線 堺東駅より徒歩15分

●生徒の数

141名(2016/4/1現在)



◆「堺学」とは

「堺学」が目指すところ

堺には色々な素晴らしい「伝統的職業」があります。私たち「大阪府立堺工科高等学校定時制課程」では、それら原の「伝統的職業産業」と共に発信すべく、平成17年度より地域の伝統的なものづくりを授業に取り入れた講座「堺学」を講義しています。

授業では国から伝統的工芸品を作っている「打刃物」に挑戦、生徒たちは素晴らしい物を作っています。現在は「打刃物」に加え、原の伝統産業である「高梁酒」の授業も開講されています。西講義も土曜日開講であるにもかかわらず、それぞれ10名の生徒が受講を希望し、「打刃物」「高梁酒」作りに、熱心に取り組んでいます。

本校はこの「堺学」を通して、「生徒中心」「地域密着型」の学校づくりを目指しています。

◆東北支援プロジェクトのあゆみ①

2011年	5月 包丁製作開始 8月 包丁寄贈(遠野市へ) 9月 燗香製作開始 10月 燗香販売実習開始
2012年	2月 燗香売上の一部を寄付(遠野・釜石市へ) 5月 包丁製作開始 8月 包丁寄贈(釜石へ) 10月 燗香販売実習開始・包丁製作開始
2013年	3月 燗香売上の一部を寄付並びに包丁寄贈(陸前高田・気仙沼・釜石市へ) 9月 釜石市より「櫛の木」届く 燗香製作開始(釜石市の「櫛の木」使用)
2014年	3月 釜石市東日本大震災犠牲者追悼式に参列 6月 包丁製作開始 7月 実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により宮城県・岩手県へ

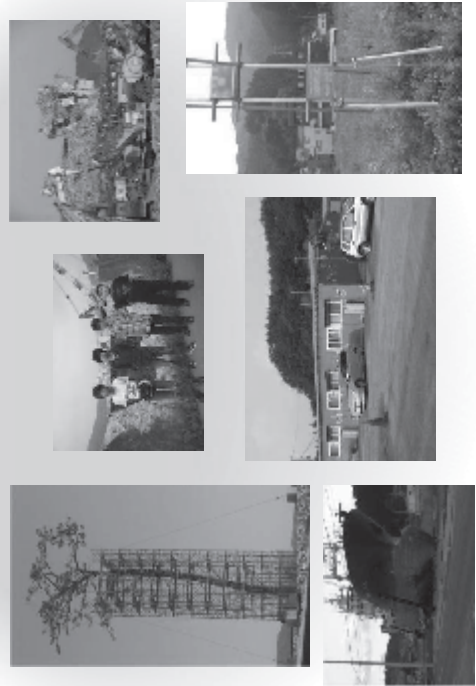
◆東北支援プロジェクトのあゆみ②

- | | | |
|-------|-----|---|
| 2014年 | 9月 | 線香製作開始 |
| | 10月 | 線香販売実習開始・包丁製作開始 |
| 2015年 | 2月 | 線香売上の一部を寄付並びに包丁寄贈(名取市へ) |
| | 9月 | 線香製作開始 |
| | 10月 | 線香販売実習開始・包丁製作開始 |
| 2016年 | 3月 | 線香売上の一部を寄付並びに包丁寄贈(石巻市へ) |
| | 4月 | 宮城県農業高校より「桜の花びら」が届く |
| | 7月 | 実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により宮城県名取市・石巻市・気仙沼市・岩手県釜石市へ
◎今まで寄贈した包丁の「研ぎ直し」
◎宮城県農業高校との交流 |
| | 9月 | 線香製作開始(宮城県農業高校より4月に送って頂いた「桜の花びら」を練り込みコロナ線香製作) |
| | 10月 | 線香販売実習開始・包丁製作開始 |

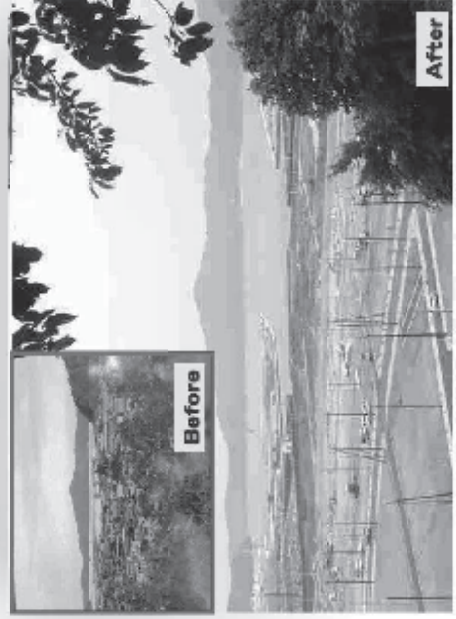
ボランティア活動に賛同し協力して頂いた 味噌石物製作所のみなさん



◆東北被災地の状況 (2014年3月)



◆東北被災地の現状 (2016年7月)



◆東北被災地の方々との交流



釜石市長を訪問

◆東北被災地の方々との交流



被災された方々の心を開く活動

東北災害支援ボランティア活動の記録
(2016/7/25～28)



平成28(2016)年度

実践的防後教育総合支援事業
「防災ボランティア活動」の記録

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

◆富城県農業高校との交流



◆まとめ①(災害ボランティア活動を終えて)

- 五年経過した被災地の状況を見て、又、被災した方々のお話を直接聞くことができ、東日本大震災についての理解が一層深まった。
- 「被災地を訪れること」「包丁を研ぐ」ということで被災地の方々の笑顔に触れることができ、心が温かくなった。
- 学校で学んだ技術がボランティア活動に役立ち技術を身につけることの大切さを実感できた。
- 被災した高校との交流ができ、新たな出会いに巡り合えた。

◆新聞記事



◆まとめ②(災害ボランティア活動を終えて)

- 東北支援を続けていく気持ちはさらに強くなり、今後どのような支援ができるかを考える上でも、大いに参考になった。
- この震災を絶対に風化させてはいけないし、津波からの避難の方法も伝えていかなければいけないと痛切に感じた。
- 復興は、思いのほかに進んでいないという厳しい現実を突き付けられた。

「高校生が園児に伝えた東北被災地ボランティア研修

～ 豊中市立西丘こども園での防災啓発報告会を実現して ～

大阪府立千里青雲高等学校 教諭 山下宏明

ボランティア参加生徒

1. 東北被災地での研修概要

- a) 訪問日 平成28年 8月7日(日)～ 8月10日(水) 3泊4日
- b) 参加者 高校3年生女子2名、2年生男子2名女子2名 計6名、引率教員1名
(参加生徒の内訳は、ボランティア同好会創設メンバー3名と生徒会執行部関係3名)
- c) 研修行程
- 8月7日 10:55 仙台空港着 →津波遺構視察 (東北新幹線・JR釜石線経由) 16:41 JR釜石着
17:00～ 被災ホテルから「釜石中心街の被災状況」視察 (ホテル屋上にて)
17:20～ 釜石仮設住宅住民 (旧・甲子仮設) の皆さんとの交流会 (会議室で約1時間半)
- 8月8日 7:20 ホテル出発 →ジャンボタクシーで「旧大槌町役場」「城山公園」視察
9:00～ 「平成の杜」(横浜ゴムの社会貢献事業) で草刈りボランティア (約2時間)
13:30～ 大槌町の平野町長を表敬訪問、講話 (約1時間)
15:20～ 岩手県立大槌高校との交流会 (約1時間半) →「蓬莱島」経由で帰路
- 8月9日 6:30 ホテル出発 6:52 JR釜石発 (「南三陸鉄道」および代替輸送「BRT」にて)
8:55 陸前高田着 →ジャンボタクシーで「道の駅・高田松原跡」視察
10:00～ 仮設商店街「鶴亀鮎」にて店長講話 (約1時間: 神奈川県の小中学生と同席)
11:30～ 「奇跡の一本松」「南三陸町防災庁舎跡」視察経由で石巻へ向かう
14:30～ 石巻市立「大川小学校跡」視察 15:30～ 宮城県水産高校との交流会 (約1時間半)
- 8月10日 7:10 ホテル出発 7:32 JR石巻発 8:15 JR松島海岸着
8:30～ 「瑞巖寺」など松島の街を視察・聞き取り (約2時間)
11:00 松島海岸発 →被災した島々を「芭蕉丸」にて洋上視察 11:50 塩釜港着
14:30～ 「せんだい3/11メモリアル交流館」視察・聞き取り (約1時間) 19:15 大阪空港着

2. 東北ボランティア研修で学んだこと、それを伝えること

a) 学んだこと

- 東北大震災5年半後の被災地を訪問して、被災の圧倒的現実を実感した。
 - 大地震大津波の遺構や体験談を見聞きし、自然の脅威と人々の知恵や力を学んだ。
 - 被災を追体験できたことで、自分たちの防災減災意識と啓発意欲が高まった。
- 復興しつつある被災地を見聞して、新たな課題や被災者犠牲者の想いを知ることができた。
 - 街作りやコミュニティ作り、被災伝承や遺構保存、防災減災のあり方を考えさせられた。
 - ボランティアや支援の継続、被災地被災者とのつながりが大切だと痛感した。

b) 校内での報告など

- 8/22: 2学期始業式での全体報告 (体育館でパワーポイントスライドの大画面)
- 9/3: 文化祭のボランティア同好会展示 (報告冊子発行、パネルや防災グッズ、被災地物産など)
- 文化祭での報告冊子を全教職員に配布、学校協議会で紹介し報告冊子を配布
- P T A新聞の取材を受け、卒業記念号で記事化 など

c) 校外での報告など

- 11/24: 豊中市立西丘こども園 (4・5歳児60名を対象) での防災啓発報告会 (約1時間)
- 豊中市消防局新千里出張所との交流: スライド (高校用、園児用) や報告冊子の提供など
- 主な交流先や研修先の皆さんに報告冊子や写真、スライドCD-ROMを送付
- さらに、豊中ボランティアフェスティバルに参加して報告予定 (2/18) など

「子どもと学ぶ防災 ～東北の今を伝える」

大阪府立千里青雲高校教員（社会科） 山下宏明

さる11月24日（木）夕方、豊中市立西丘こども園で画期的プログラムが行われた。この夏、「東北ボランティア研修」を体験した本校生徒が、西丘こども園のキリン組（5歳児）とゾウ組（4歳児）約60人を対象に、「とうほくのつなみ」と題して報告発表したのだ。

この企画は「幼児教育実技」で保育実習をお願いしてきた西丘こども園とのつながりが深まって実現した。今年度は本校で「サツマイモ共同農園」を始めたこともあり、本校と西丘こども園の交流と信頼関係が一気に深化。夏休みの園児水遣いの時、私が2度の東北ボランティア同行で不在だったのをきっかけに、園長さんたちと東北ボランティアの話をしたり、文化祭の報告冊子をお渡ししたのが発端だった。「生徒6名を引率した東北ボランティア研修は、学校や地域での成果報告が求められています。こども園の先生方への報告会は可能ですか？」と相談したところ、即座に「子どもたちにしてください」と園長さんから提案されたのだった。

遠い東北の、それも津波と防災の話を、未就学の園児が理解できるのだろうか。恐ろしい出来事や避難のポイントなどを、園児にどう伝えたらいいのか。一瞬躊躇した私に、園長さんは「避難訓練は一所懸命やっています。隣の新千里消防署にも協力してもらっています。キリン組の子どもたちのひらがな解読はまちまちですが、高校生が伝えたいことは、十分理解できると思いますよ」との強い一押し。こうなったら、やるしかない。報告する生徒たちの了解を取り付け、2学期始業式の全校報告で使ったパワーポイントスライドの全面改訂に取り掛かった。

当初はキリン組だけ対象だったのが、せっかくだからゾウ組もと依頼され、言葉遣いや写真表現に四苦八苦。言葉一つとっても、単に分かり易いというだけでなく、子どもたちの多様な家庭事情や生活背景も考慮して言葉を選ぶ作業は、生徒も私もいい勉強になった。園との打ち合わせや要望を入れつつ、生徒が作り始めたパワポに私もはまってしまい、本校情報科の成田先生の力も借りたりして、ほぼ完璧なスライドができた。模擬練習も重ねた。さて、子どもたちはどう反応するか。当日24日、本校のPCとプロジェクターを持参し、いよいよ本番を迎えた。

準備で早入りした私を発見して駆け寄ってきたキリン組園児たちは、夕方4時からの発表会に興味津々。お昼寝後の1階ホールでセッティングを終えると、ちょうど本校から塩川・近藤・青地の3先生に引率された生徒たちが到着した。主役の報告生徒5名に加え、私が今年度創設した集中講座「地域の防災」受講者から4名、ボランティア同好会新入会員1名という本校生徒10名の面々。園児たち約60名と保護者職員有志の着席後、東北復興支援歌「花は咲く」が流れる中、本校からの参加者が拍手で迎えられて入場した。元気はつらつの園長さんが進行役を務め、本校生徒全員が自己紹介。そして、照明が落とされ、発表会が始まった。

トップはこのほど生徒会長に選出された2年生の奥田君。パワポのスライドを活用しながら、明るく説明し始めた。饒舌な奥田君は、練習以上のパフォーマンスで園児の心をがっちり捉えている。子どもたちは集中してノリノリ、よし大丈夫だ。途中、随所にクイズを入れたのも、予想以上の盛り上がりで大正解。2番手の2年生竹田さん、3番手の2年生植村さん、最終ランナー3年生浅井さんへと見事なバトンさばきで、子どもたちを釘付けにした。パワポを中心的に作った2年生山下君のPC操作も上出来。園長さんによる最後のまとめも素晴らしかった。高校生による園児への防災啓発事業は、申し分ない成功を収めて約1時間、無事終了した。

歓声と全身全霊で学んだ子どもたちが、静かになった場面がいくつかあった。釜石の被災ホテル周辺の津波直後の被害写真と、道の駅「たかたまつばら」跡の津波15m表示。そして、児童教員ほとんどが流された大川小学校の今の場面である。子どもたちは、圧倒的な津波のパワーと恐ろしさに立ちすくみ、感じ入っていた。この反応を見て、子どもたちに大自然の脅威を隠したり、ごまかしたりするのはまずいと改めて実感した。真実大切なことは早くから伝えたい。(略)

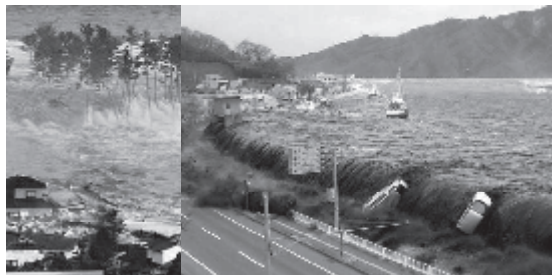
『**とうほくのつなみ!**』
 「せんりせいうんこうこう」のせいとが
2016ねん8がつ、
 「とうほく」にいて、
 みたこと、きいたこと、
 おてつだいしたこと!

あさい まう(3ねん) かわの ひかる(3ねん)
 やました ゆうが(2ねん) おくだ なおき(2ねん)
 うえむら うた(2ねん) たけだ ゆうこ(2ねん)

5ねんまえ、「とうほく」でおきた
 「おおじしん」と「おおつなみ」を、
みんな、しってるかな?

「とうほく」という、とおいところで、**5ねんまえ**。
 「きりんぐみ」や「ぞうぐみ」のみんながうまれたころ。
 3がつ11にちに「おおじしん」がおきたんだ。
 そのあとすぐに、うみから「おおつなみ」がきて、
 ひとやおうち、まちをのみこんでしまった。

5ねんまえ、「とうほく」でおきた
 「おおじしん」と「おおつなみ」を、
みんな、しってるかな?



「**とうほく**」にいてきました

ことしのなつやすみ、「せんりせいうんこうこう」の
 らいんが、「やましたせんせい」といっしょに、つなみで
 たいへんだった「とうほく」にいったよ。いろんなところ
 をみたり、ひとにきいたり、おてつだいしてきたよ。
 きょうはそのはなしを、きいてね!



「**せんだいくこう**」のつなみ
震災 そのとき……>
The Disaster and Its Aftermath



2011年3月11日、東日本大震災が発生。
 震災・周辺住民は避難が、ターミナルビルに避難しました。
 押し寄せた津波により、ターミナルビル1階には自動車や瓦礫が流れ込み、
 小笠原ヘリコプターなども損壊。仙台空港は大被害を受けました。

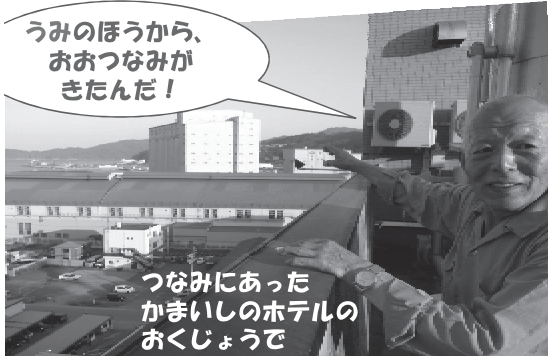
「**せんだいくこう**」のつなみ



ここまでできた
 んだ!
 3メートル!

「おうちがながされたひと」のおはなし

うみのほうから、
おおつなみが
きたんだ！



つなみにあった
かまいしのホテルの
おくじょうで

「おうちがながされたひと」のおはなし

ひともいえも
くるまも、
つなみになが
されちゃった。
たかいところ
にいて、
たすかったよ。



つなみにあった
かまいしのホテルの
おくじょうで

つなみのあとの「かまいしのホテル」



ホテルで「おはなしかい」

つなみの
こわさを
しったよ



たかいところに
すぐに
にげよう！！

おはなし、ありがとうございました

クイズ 1

「かまいしのキセキ」は
どちらでしょうか？

- 1 つなみが
いえのまえでとまった。
- 2 ちゅうがくせいや
こうこうせいが
ちいさいこどもを
たかいところに
つれていって、
みんなたすかった。

こたえ



ちゅうがくせいや
こうこうせいが
ちいさいこどもを
たかいところに
つれていって、
みんなたすかった

「くさかり」のおてつだい

ドングリのきをうえて、
つなみにまけないつよい
かべをつくるんだよ！

ドングリのきと、
ねっこが、
かべをつよく
するんだ



ドングリのきよしも
おおきい「くさ」を
いっぱいぬきました



いっぱいあせを
かいて、
たのしかった！

クイズ 2

ドングリのきのかべと
コンクリートのかべは、
どちらがつよいでしょうか？？

1 ドングリのきのかべ

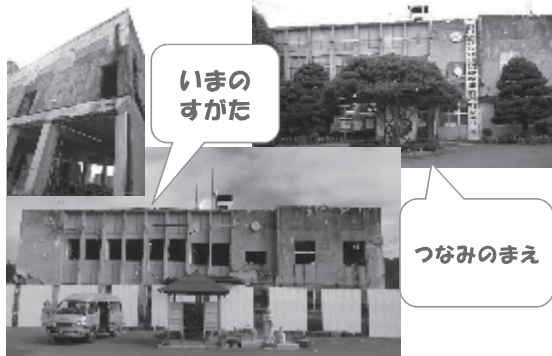
2 コンクリートのかべ

こたえ



ドングリのきの
かべ

おおつちちょうの「やくぼ」



いまのすがた

つなみのまえ

「おおつちちょうちょう」のおはなし



さっきのやくぼのおくじょうにのぼって、たすかったんだ

なくなってしまったまちを、あたらしくつくりなおしているんだよ

あたらしいまちのはじまり

「ちょうちょうさん」ときねんしゃしん



おはなし、ありがとうございました

「おおつちこうこう」とおはなしかい



つなみのあと、「ひなんじょ」になったこうこうだよ。こうこうせいがおせわしました。

歓迎大阪府立千里青雲高等学校の皆さん

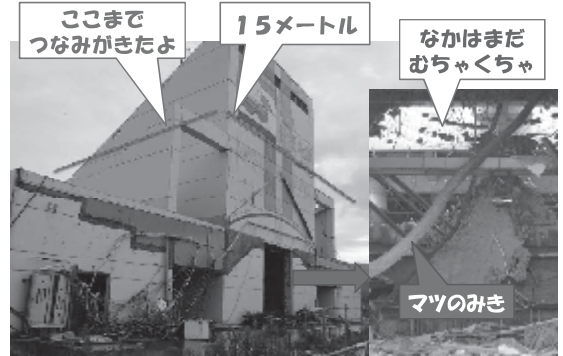
わたしたちも、こうえんやかだんをつくらせて、まちづくりをしています

みんななかよくなったよ!



みんなたのしかったよ!

みちのえき「たかたまつばら」あと



ここまでつなみがきたよ

15メートル

なかはまだむちゃくちゃ

マツのみき

クイズ 3

みちのえきにいたひとは
みんなたすかりました。
どうしてでしょか??

1 みちのえきの
てっぺんまでのぼって
たすかった。

2 つなみのなかを
およいでたすかった。

こたえ



みちのえきの
てっぺんまで
のぼって
たすかった。

「おすしやさん」のおはなし

しょうかくせい、
ちゅうかくせいと
いっしょに
きました。

テレビもついに
きていたよ



おはなし、ありがとうございました

みんな、
たのしかった
よ!

おすし
おいしかっ
たよ!

かせつのおみせの
まえで、テーブルなげて
ぐるぐる



「おおかわしょうがっこう」のかなしみ

きたかみがわのそばの、
かわいいこうしゃの
しょうがっこうでした

つなみのまえの
しょうがっこうとまち



きょうしつ

たいいくかん

「おおかわしょうがっこう」のかなしみ



うみから4キロ
はなれていても、
ぜんぶながされ
ました



きょうしつ
のなか



たいいく
かん



みんな
ながされ
ました

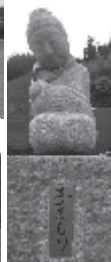
やがいステージ
のそとかべ



やがいステージ
のなか



「おおかわしょうがっこう」のこと、
わすれないよ…



「すいさんこうこう」とのおはなしかい

かんづめやパンを
こうこうせいが
つくるんだよ



おおきなふねにのって
さかなをとったり、
がいこくにもいく
こうこうだよ。



パネルを
もらったよ!

みんな、
なかよくな
ったよ!

クイズ 4

すいさんこうこうでは、
なにをつくってまちをげんきに
しているのでしょうか？

1 さつまいもととまと

2 さんまのかんづめと
エビいりパン

こたえ



さんまのかんづめ
と
エビいりパン

「まつしま」にいきました！



つなみは
おてらのまえで
とまりました

つなみに
つかったマツは
かれかけてます



「まつしま」から
ふねにのったよ！

しまも、つなみでかたちがかわりました



みんな、げんきにかえってきたよ。

- 「じしん」や「つなみ」の
ことが、よくわかりました！
- がんばっているひとと、
たくさん「ともだち」になれました！



「いのち」が、いちばんだいじ

「にしおかこどもえん」のみんなへ！

- 「じしん」や「つなみ」でわかったり、
かんじたことを、まわりのひとにつたえてね！
- 「ともだち」たくさんつくろうね！

さいごまできいてくれてありがとう！

災害ボランティア活動の 推進支援事業

実践校 成果報告

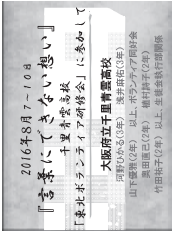
大阪府立千里青雲高等学校

大阪府立東百舌鳥高等学校

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

- ・ボランティア活動などの実施内容
 (「平成の杜」草刈りボランティアエリアや各地での視察・交流)
- ・ボランティア活動時等の生徒の様子など
 →以下に添付した「始業式での全校報告用パワーポイントスライド」を参照されたい。また、資料として別添の「文化祭での報告冊子」、Vの「園児用スライド」なども参照されたい。



V 卒業成果の周知に関する取組みの概要

- ・8/22「2学期始業式にて全校報告」(体育館で大画面を活用したパワーポイント)
- ・8/26「地域の防災」(特設集中講座：受講者3年生6名)で報告と交流。
- ・9/3「文化祭にてボランティア同好会の展示コーナーで報告発表」(報告冊子の発行、パワーポイントのパネルや防災グッズ、被災地物産などの紹介展示など)
- ・「文化祭での報告冊子」は全教職員に配布し、全HR教室に掲示した。また、11月の学校協議会でも校長が紹介の上、報告冊子を配付した。
- ・11/24「豊中市立西丘こども園での園児向け防災啓発報告会」(4・5歳児60名を対象：約1時間、保護者職員の有志10名余も参加。本校からは生徒10名と教員4名が参加)
 - こども園側は4・5歳児すべての保護者にスライド配布資料を配るとともに、「たより」で本行事を全保護者に紹介してくれた。「山下授業+αプリント No.11」でも本行事を特集紹介して授業受講生徒や教職員に配布した。
- ・12/21「豊中市消防局新千里出張所との交流」(高校生と園児用のスライドや報告冊子の提供、今後の防災減災活動への助言を受ける)
- ・今後は、2月の「豊中ボランティアアフェスティバル」に参加して報告発表する予定である。
 →上記IVのパワーポイントに加え、以下の「園児向けパワーポイント」および別添「報告冊子」

「どうほくのつなび！」

「せんりほいろうこう」のほいどが
2016年4.8がっ。
 「どうほく」にいて、
 みたこと、せいたこと、
 おてつせいたこと!

あまの せう(2年) かすの たい(2年) せいの せう(2年)
 あまの せう(2年) せいの せう(2年) せいの せう(2年)
 うまの せう(2年) せいの せう(2年)

などを参照されたい。

VI 取組みの成果と今後の課題

- ・参加生徒の防災減災やボランティアに対する意識と行動力が飛躍的に向上し、周囲に良い影響を及ぼした。東北の被災者はもとより、周囲の子どもや障がい者、高齢者など社会的弱者に対する共感や支援、連帯の気持ちも育まれ、本校の人権文化が全体としてレベルアップした。
- ・豊中市社会福祉協議会や豊中市消防局をはじめ、防災やボランティアに関連する地元諸機関との連携が深まった。また、集中講座「地域の防災」や学校設定科目「幼児教育実技」といった総合学科たる本校独自の授業科目ともリンクすることができた。
- ・「豊中市立西丘こども園での園児向け防災啓発報告会」を実現できたことにより、地域と学校の相互信頼と連携を深め、地域の防災減災や結びつきを進める契機になった。また、園児に被災地や防災をどう伝えるか、生徒が社会的弱者とコミュニケーションする精神と技法を習得できた。
- ・本事業で交流した「宮城県水産高校の創立120周年記念誌」に本校との交流会記事が写真入りで載ったのははじめ、本校と東北被災地とのつながりを多彩に発信し、記録できた。
- ・今後の課題としては、本事業で高まった本校における防災減災やボランティアの取組みと東北被災地との連帯をどう維持発展させるかという課題である。加えて、こうした事業を担う教職員が、被災地支援をどう高めるかという課題である。これら学校現場の課題解決を支援するため、後継者養成と意識向上も喫緊の課題である。これら学校現場の課題解決を支援するため、本事業のような生徒教職員のボランティアや被災地防衛の経費援助などについて、大阪府教育庁をはじめ行政諸機関がさらなる拡充を図られるよう、お願い申し上げる次第である。

大阪府立東百舌鳥高等学校

Ⅰ. 取組みの概要

事前学習として、福島県四ツ倉で被災した本校生徒Aさんから、地震直後の混乱する学校の様子や津波に町が飲み込まれていく様子、また、余震で逃げた運動場に地動れが起こった時のことなど当時の体験を聞いた。

8月9日から11日に現地を訪問した。一日目はいわき市地域防災交流センターで避難ビルの見学を行い、語り部の佐藤トミ子さんに災害時の様子や避難所での生活の話を知った。二日目の午前は、小名浜地区の復興ボランティアセンターで綿栽培のボランティア活動を行い、午後は四ツ倉の復興住宅を訪問し、当時の様子を聞いた。三日目は現地高校生との交流を行った。

2学期始業式で全校生徒に活動の報告を行った。また、PTA委員会でも報告を行った。10月には1年生の防災HRを企画し、今回の体験を踏まえて防災について考えるHRを行った。

Ⅱ. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
5月～6月	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒Aさんが福島県四ツ倉で被災した体験があることを知った生徒会執行部のメンバーが、震災の実態や復興の様子などを自分の目で見て感じて、今後の生徒会活動に活かして行きたいということと呼びかけ集まった。 Aさんの体験の聴き取りを二回行った。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市阿倍野防災センターで災害について学んだ。 復興住宅の山野辺さんに事前の挨拶文を書き送った。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 9月～11日、福島を訪問した。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを行いながら報告のためのパワーポイントを作成。 防災ボランティア報告書を全職員に配布した。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭においてパネル展示を行った。 始業式で全校生徒にパワーポイントを使って報告を行った。 PTA委員会でパワーポイントを使って報告を行った。
11月～12月	<ul style="list-style-type: none"> 1年生対象に災害が起こった時の対応や日頃の心構えなどを考える防災HRを企画し運営した。
1月	<ul style="list-style-type: none"> 防災HRをうけて、自分たちで考えた方法での避難訓練を行う予定。

Ⅲ. 被災地での活動の概要

1 概要

おもな行先	福島県いわき市小名浜地区・四ツ倉地区
参加人数	生徒： 5名 ・ 引率： 1名
期間	平成28年8月9日～8月11日 (2泊3日)

2 行程

時刻	(1日目) 8月9日	(2日目) 8月10日	(3日目) 8月11日
7:00	JR三国ヶ丘集合	起床 9:00	起床 9:00
8:10	新大阪発	小名浜地区復興ボランティアセンター到着	四ツ倉道の駅で 現地高校生との交流を行 った。
10:53	東京線JR常磐線 久ノ浜着	塩害と風評被害で作物を 作ることができなくなっ た畑に綿を植えるコット ンプロジェクトという活 動を行っていることを聴 き取る。	今座っている道の駅の二 階にまで津波が来ていた ことなどを聞き、当日の 様子を体感することがで きた。
13:55	いわき市地域防災交流セ ンターを見学 津波が押し寄せた当日の 状況、その後発生した火 災の様子などのパネル展 示を見学した後、語り部 の佐藤トミ子さんから当 年の様子や原簿事故で、 半年にわたった避難生活 のことなどを聞かせてい ただいた。	その後、実際にコットン 栽培の畑に移動し、作業 を行った。 14:00	また、その後の5年間で 復興にむけて様々な取り 組みが行われていること を知った。 12:00
18:00	いわき駅前の東横インに 到着 平中央公園の「平和の灯 り」見学 ミーティング 就寝	四ツ倉南田地の被災者住 宅のみなさんのお話を同 った。 津波ですべて流され思い 出の写真も残っていない など具体的な話を聞くこ とができた。 16:00	四ツ倉の町にある津波関 係の看板を確認しながら 駅に向かう。 13:00 四ツ倉発 20:00 帰阪 解散

IV 被災地でのボランティア活動などの取組み

1 日目

いわき市地域防災交流センターでの佐藤さんの話を聞いて想像を遙かに超えた当日の状況やそ
 の中で力強く生きていく人々の思いに感動した様子であった。

(参加生徒の感想)

- ・避難した最初の体育館は足の踏み場もなく、毛布 1 枚分ほどのスペースしかなかったが
 佐藤さんが中心となって教え子の女性に声をかけ協力してもらって運営していったらしい。団
 結力がすごいと思った。
- ・一番心に残ったのは「あなたかいい心を持ち、優しい気持ちで人と接すると相手も帰ってきてく
 れる」というお話です。毎朝「こんなよいことがあったよ！」と報告して一日を迎えていた開
 き、みんなに対しての思いやりや優しさに涙が出ました。
- ・2、3日で帰れると思っていたのに6ヶ月も避難所で過ごさなくてはいけなくて、みんなで力
 を合わせて暮らして、最後には避難生活が楽しかったという人までいたなんて本当にすごいと思
 いました。



2 日目

小名浜地区復興ボランティアセンター コットンプロジェクトに参加

(参加生徒の感想)

- ・原発による風評被害があまりにも大きく、食べ物を作ってもほとんど売れず辞めてしまう農家
 さんが多くいたなかで雑草だらけになった田畑に食べ物ではないコットンを育てるといって
 ても素敵なプロジェクトでした。コットンペイブについている種を買った人に育ててもらい、
 また送り返してもらって新たなコットンペイブになる。まるで人間のよう親のコットンペイ
 ブから子どもコットンペイブへと想いが受け継がれているようでした。
- ・コットンプロジェクトの方の、諦めずに前だけを向いて、いわきが早く復興できるよりにと頑
 張っている姿を見て、私も少しでもいいからそのお手伝いがしたいと思いました。



四ツ倉南田地の被災者住宅のみなさんのお話

(参加生徒の感想)

- ・メディアでは知ることができなかった地震が起きたときの状況や避難生活でのことを知ること
 ができてよかったです。
- ・「何かあった時にどこに行くかを家族で考え決めておいて欲しい。日頃から何が起きるのか
 わからないということを意識しておくのが大切だ。」という言葉が印象に残りました。
- ・「命があれば何度だって立ち上がれる。家族全員が生き残れただけでも幸せ。誰も恨めない。
 相手は自然だから。」という言葉に感動しました。辛い思い出も受け止めて、何かのせいにな
 ることなくまっすぐに向き合っているところがすごいいいと思いました。



(Aさんの感想)

- ・あの日は頭が真っ白で、いつどうやって逃げたのか、回りのことは何も覚えていない。
 何も考えられず、ただ走るだけだったが、もうここで死ぬのかという恐怖は何度も感じた。
 余震で運動場に逃げた時、運動場に地割れが起こり、自分の足下が割れた。動けなくなつたの
 で学童の先生に助けてもらったことをよく覚えている。
 今回、小学校やお寺を見て、あのときはこんな風だったと確認できた。

V 事業成果の周知に関する取組みの概要

- ・8月 パワーポイントを作成し、始業式で全校生徒に報告を行った。
- ・8月 活動報告書を全職員に配布した。
- ・10月 パワーポイントを作成し、PTA委員会で報告を行った。
 堺鉄砲町のイオンモールで行われた防災イベントでパワーポイントを
 作成し報告を行った。
 1 年生対象に防災HRを行った。
 防災HRでの意見をもとに避難訓練を行う予定

VI 取組みの成果と今後の課題

今回、現地の方々の貴重なお話を伺うことができて、参加生徒の防災に対する意識が、
 知識としての理解から自分の問題として取り組むというように大きく変化したのが分
 かった。また辛い思いをしながらも、力強く前を向いて生きて行こうとする方々の願い
 や優しさを肌で感じることもできて、参加生徒も大きなパワーをいただいた。もし、こ
 れから大阪が震災に見舞われることがあっても勇気を持って対応していくことができ
 るように思う。

今後は「防災教育は究極の人権教育である」という視点から、全校生徒に防災教育を
 行い、自分も人も大切に作る人間関係作りを徹底したい。

大阪府立堺工科大学

I. 取組みの概要

2011年3月11日に「東日本大震災」がおこり、本校は「東北支援プロジェクト」を立ち上げた。土曜講座「堺学」の開講科目である「打ち刃物」と「お線香」と「お線香」を用いた支援を続けており、被災地に生徒が作った「包丁」と「お線香」と「義捐金」と「お線香」を寄贈している。今回の取組は、本校生徒が伝統工芸士の方々と一緒に、今まで寄贈した「包丁」の研ぎ直しと、仮設住宅で今もなお不自由な生活を余儀なくされている被災者の方々の「包丁」の研ぎ直しのための被災地支援である。また、津波で校舎が流され、仮設のプレハブ校舎で一生懸命に勉強に励んでいる宮城県農業高等学校との交流と「コロナ線香」(4月に同校より送ってもらった校内の八重桜の花びらを乾燥させて練り込み、本校生徒が作った線香)の打ち合わせのための訪問である。

II. 年間を通じた取組みの概要

月	取組み内容
7月	11(月)・12(火)被災地の状況説明・事前学習(DVD・写真等) 19(火)宮城県農業高校とのコロナ線香についての意見交換
8月	20(水)・21(木)・22(金)被災地で研ぎ直す刃物についての研修 20(土)三部合同研修会において活動報告(DVD・写真・パネル展示)
9月	28(日)学区説明会において活動報告(DVD・写真・パネル展示)
10月	17(土)～10月8(土)被災地に寄贈する線香の製作 8(土)～12月3(土)被災地に寄贈する刃物の製作
11月	15(土)・16(日)堺まつりにおいて活動報告(DVD・写真・パネル展示) 5日(土)文化祭において活動報告(DVD・写真・パネル展示)
12月	12(土)・13(日)線香まつりにおいて活動報告(DVD・写真・パネル展示)
2月	3日(土)中学生体験入学において活動報告(DVD・写真・パネル展示) 18(土)・19(日)刃物まつりにおいて活動報告(DVD・写真・パネル展示)

III. 被災地での活動の概要

1 概要

おもな先行先	宮城県名取市・石巻市・気仙沼市/岩手県釜石市
参加人数	生徒：3名・引率：1名
期 間	平成28年7月25日～7月28日(3泊4日)

2 行程

時刻	(1日目) 7月 25日	(2日目) 7月 26日	(3日目) 7月 27日	(4日目) 7月 28日
7	起床 朝食 堺東集合 伊丹空港着 伊丹空港発 JAL2205便	起床 朝食 ミーティング ホテル発 石巻市立渡波中学校訪問 寄贈した「包丁研ぎ直し」	起床 朝食 ミーティング ホテル発 気仙沼市内 仮設住宅訪問 「包丁研ぎ直し」	起床 朝食 ホテル発 釜石市内 仮設住宅訪問 「包丁研ぎ直し」
8	仙台空港着	昼食	昼食	昼食 ミーティング
9	美田園到着 美田園第一仮設住宅	昼食	釜石市内 仮設住宅訪問 「包丁研ぎ直し」	釜石市内 被災地視察
10	「包丁研ぎ直し」 宮城県農業高校 交流・意見交換	仮設住宅訪問 「包丁研ぎ直し」		
11	ホテル着 夕食・入浴 ミーティング	ホテル着 夕食・入浴 ミーティング	ホテル着 夕食・入浴 ミーティング	いわて花巻空港着 いわて花巻空港発
12	就寝	就寝	就寝	堺東着 解散

IV. 被災地でのボランティア活動などの取組み

これまでに生徒が寄贈した「包丁」の研ぎ直しに被災地を訪問した。教育委員会や中学校で伝統工芸士の方々と共に、集められたすべての「包丁」を研ぎ直した。仮設住宅を訪れ、切れない「包丁」で不自由している被災者の方々の「包丁」の研ぎ直しもおこなった。生徒は出会ったすべての人に感謝され、たくさんの方々の笑顔に出会い、本当に満たされた表情をしていた。ボランティアに対する気持ちと自己有用感を高めることが出来た。また、宮城県農業高等学校との交流も真剣に取り組んだ。

V. 事業成果の周知に関する取組みの概要

- ・ 全校集会等において生徒による成果発表
- ・ 学校ホームページ掲載
- ・ 新聞報道を通しての発信
- ・ 地域イベントにおいてDVD放映及びパネル展示並びに地域の地場産業団体への発信
- ・ 大阪府下の教員に向けての講演等
- ・ 各種ボランティア団体への全国規模の発信

VI 取り組みの成果と今後の課題

取り組みの成果

- ・被災地の方々ととの交流により、地震や津波に対する知識や教訓を得ることが出来て、校内はもろろん地域に向けても情報発信することが出来る。
- ・地域の伝統・地場産業による復興支援など、地域の方々と防災に関する教訓等を共有することが出来る。
- ・今までで自信を持つことが出来なかった「定時制」の生徒が実際に被災地を訪問することにより、ボランティア精神が芽生え、感謝されることにより「自己有用感」が高められる。
- ・本校及び周辺は海抜10mに位置するので、津波に関する知識は、本校の防災教育にとつて非常に役に立つ。

今後の課題

- ・今後も支援を続けていくために、今までの以上に生徒と共に被災地の現状を理解させることが課題である。
- ・知らないと感じている。多くの生徒に被災地の現状を理解させることが課題である。

